

ASIA Indicators

定例経済指標レポート

韓国の鉱工業生産に調整模様 (Asia Weekly (12/25 ~12/28))

～在庫率の改善や12月の上中旬輸出動向は先行きの堅調さを示唆～

発表日: 2017年12月28日(木)

第一生命経済研究所 経済調査部

主席エコノミスト 西濱 徹 (03-5221-4522)

○経済指標の振り返り

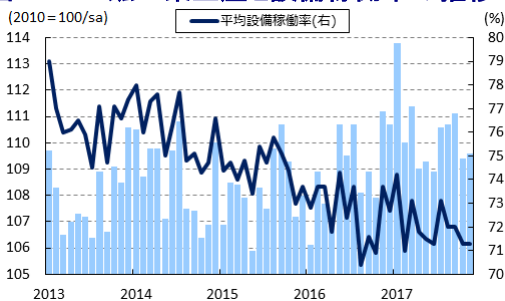
発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
12/26(火)	(シンガポール)11月消費者物価(前年比)	+0.6%	+0.6%	+0.4%
	11月鉱工業生産(前年比)	+5.3%	+8.1%	+14.5%
12/28(木)	(韓国)11月鉱工業生産(前年比)	▲1.6%	+0.0%	▲6.1%

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

[韓国] ～主力の半導体関連や化学関連で生産に調整圧力も、当面の生産は底堅い展開が続くような模様～

28日に発表された11月の鉱工業生産は前年同月比▲1.6%となり、前月(同▲6.1%)から2ヶ月連続で前年を下回る伸びに留まっている。前月比は+0.2%と前月(同▲1.5%)から2ヶ月ぶりに拡大に転じているものの、中期的な基調は減少傾向が続くなど調整圧力が掛かっている様子が見え始める。分野別では、足下で国際商品市況に底入れの動きが出ていることを反映して鉱業部門の生産に底打ち感が出ている一方、製造業の生産の頭打ちが全体の重石になっている。なお、製造業のうち自動車や電気機械関連、衣料品など軽工業関連の生産には底堅さがみられる一方、主力の半導体をはじめとする電子部品関連のほか、化学関連をはじめとする素材系の生産に軒並み下押し圧力が掛かっており、外需関連で調整圧力が掛かっている。ただし、出荷の堅調さを背景に金属関連など一部を除けば在庫率は低下する動きもみられる上、12月の輸出額は上中旬ペースで依然として前年を大きく上回る伸びが続いていることから、先行きの生産は底堅い展開が続くと見込まれる。

図1 KR 鉱工業生産と設備稼働率の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

[シンガポール] ～外需関連をけん引役に拡大基調が続いてきた鉱工業生産に頭打ちの兆候が出ている～

26日に発表された11月の消費者物価は前年同月比+0.6%となり、前月(同+0.4%)から伸びが加速した。前月比も+0.58%と前月(同▲0.29%)から3ヶ月ぶりに上昇に転じており、食料品価格については比較的落ち着いた展開が続いている一方、このところの原油相場の底入れの動きなどを反映してエネルギー価格の上昇圧力が高まっており、生活必需品を中心にインフレ圧力が高まっている様子が見え始める。なお、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比+1.5%と前月(同+1.5%)から横這いで推移しているものの、前月比は+0.04%と前月(同+0.15%)から上昇ペースは鈍化している。エネルギー価格の上昇に伴う輸送コストの上振れの動きを反映して一部の消費財で物価上昇圧力が高まる動きがみられるほか、足下の景気底入れの動きなどを反映して不動産価格でも上昇圧力が高まっている一方、雇用の改善ペースが依然として頭打ち状況にあることなどに伴い全般的にサービス物価は伸び悩んでいる。

また、同日に発表された11月の鉱工業生産は前年同月比+5.3%となり、前月（同+14.5%）から伸びが鈍化した。前月比も▲2.47%と前月（同+0.67%）から2ヶ月ぶりに減少に転じており、中期的な基調も減少傾向を強めるなど調整圧力が高まっている様子うかがえる。なお、同国ではバイオ・医薬品関連の生産は月ごとの変動幅が大きい上、生産全体の動向に影響を与えやすい特徴があるなか、同関連の生産は前月比+18.30%と前月（同▲33.87%）に大きく落ち込んだ反動も重なり3ヶ月ぶりに拡大に転じている。よって、バイオ・医薬品関連を除いた生産は前月比▲4.62%と前月（同+6.65%）から2ヶ月ぶりに減少に転じており、中期的な基調も拡大ペースが鈍化するなど頭打ち感が強まっている。電気機械関連で生産に底堅い動きがみられる一方、電子部品関連の生産に大幅な下押し圧力が掛かっているほか、化学製品関連の生産も調整しており、外需関連産業を中心に生産調整の動きが広がっている様子うかがえる。

図2 SG インフレ率の推移

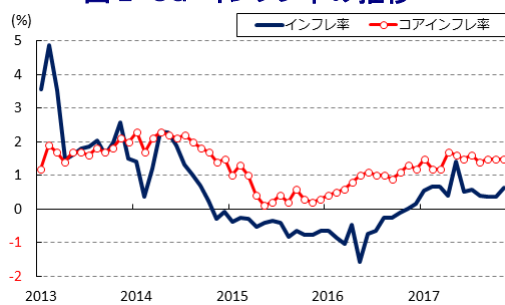
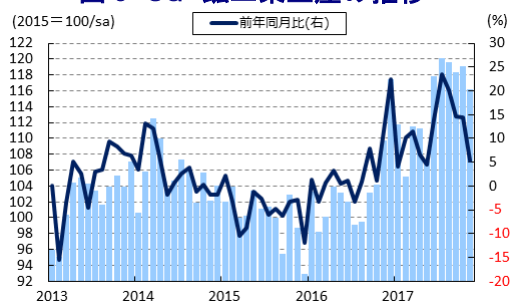


図3 SG 鉱工業生産の推移



以上